



### 第14回 これからの病院運営は“薬剤師の革新”がキーに

#### 明らかになりはじめた

#### 新型コロナウイルス感染症の病院経営への影響

新型コロナウイルス感染症の問題は、病院の経営にも大きな影響を及ぼしていることが明らかになってきました。病院の性格上、多少の違いはあります。特に、新型コロナウイルス感染症の入院を受け入れるようになった病院では、通常医療の中止、外来診療の縮小もしくは、中止などを行いつつ、特別な感染対策を行いながら治療に当たるということになりました。こうなると、売り上げは減少し、人件費は変わらないか増加、さまざまな医療材料(感染対策に対する)が必要になって経費は増加ということになり、経営状態は悪化します。この変化は、公衆衛生的な側面も大きく社会活動を支える必須のことですので、おそらく公的資金でフォローはされるのだと思います。事実、さまざまな助成金や補助金が設定されているのもそのためなのだろうと思います。

ただ、大多数の一般的な中小病院は、新型コロナウイルス感染症の入院加療を行ったり、発熱外来を開設したりしたわけではありません。そういった病院の経営はどうなっているかという、やはり、厳しくなっているのです。

その理由はいくつかありますが、1つは外来患者さんの受診控えの傾向が明らかになったということです。外来診療部門そのものの採算性はそれほど高いものではありませんが、少なからずの売り上げへの貢献はありますし、また、病院の特徴によっても異なるとは思いますが、入院患者さんのルートになっているケースもあります。そういったところが縮小されるというのは、病院の運営に大きな影響を及ぼします。

また、今はずいぶん事情は変わりましたが、最も感染拡大が懸念されたときには、全身麻酔を伴う手術はエアロゾルからの感染の懸念から、手術は緊急性が高いものだけに限定されることも多くなりました。さら

に、感染拡大を避ける観点から、医療機関同士の転院もなかなか進みにくくなりました。こういう影響もあって、病床の稼働率が大きく下がってしまった病院が多くなりました。

#### 今後 病院が直面する経営課題の克服に向け 薬剤師のあり方・働き方の見直しが必要に

このような変化の中で、病院経営のあり方についても危機感が高まっています。緊急事態宣言の解除もあって、以前とは全く同じ形にはならないけれども、new normal とも言うべき病院の運営体制を考える必要に、病院の規模を問わず、迫られていると思います。

ここでポイントになるのは、意外なようですが、医師のタスクシフト、タスクシェアリングの話になると思います。もともと、この新型コロナウイルス感染症の前から、医師の働き方改革が法的に求められるまで5年を切ったこともあり、抜本的な見直しを図ろうという機運はありました。とはいえ、なかなか難しい面があるのも事実ですが、これから病院が直面する経営課題の克服には、医師の生産性向上と治療の質と効率性の両立が欠かせません。これら2つの問題をクリアするためには、病院内における薬剤部のあり方、薬剤師の働き方を見直していく必要があると感じています。

なぜなら、医師のタスクの多くは、患者の病状に応じた薬物治療を処方箋という形で明らかにすることだと思います。単に処方代行をするのではなく、現在の薬物治療の状況を薬剤師が薬学的に判断し、医師と協働して当たるという体制を構築できれば、医師が医師でしかできない業務に専念できるようになり、結果的に生産性は向上します。それとともに、薬剤師の服用後のフォローによって薬学的なアセスメントを次回の処方に活かすことができれば、薬物治療の質は向上していくでしょう。これからの病院運営には、薬剤師の革新がキーになるのだと思います。